



**平成26年9月17日（水）名古屋市立八事小学校にて
「くすりの正しい飲み方：くすりと安全に安心して付き合う」の
「くすり教室：実験講座」と「乱用薬物には絶対手を出さない！」：
授業」を開催**

特定非営利活動法人医薬品適正使用推進機構（NPO J-DO）は、国民に「くすり」を安全に安心して使っていただくために薬剤師や国民に対する教育講演や学会を開催しています。その活動の一つとして、小学生にも「くすり」のことを知ってもらう授業や体験実験を行っています。

名古屋市立八事小学校（森 久晃校長）学校薬剤師の河野誠先生のご尽力により、平成26年9月17日（水）、名古屋市立八事小学校にて「くすりの正しい飲み方：くすりと安全に安心して付き合う」「くすり教室：実験講座」および「乱用薬物には絶対手を出さない！」を次ページの内容にて開催しました。

近年薬物乱用者の低年齢化が進んでおり、容易に「危険ドラッグ」を入手できる社会的環境や、「一度くらいなら大丈夫」という誤った認識がその背景にあると言われていています。薬の専門家である薬剤師がその危険性について講義することで、小学生の頃から乱用薬物についての正しい知識を持ち、「No!」と言えるようになることが必要です。

そこで、病院や薬局で手に入れられる薬物の特徴についての授業・実験に加え、今回は乱用薬物に関する講義も併せて開催しました。

当日は、名古屋市立八事小学校の大橋克雅教頭先生をはじめ、学校関係者のご協力により、小学生56名（6年生）が参加しました。授業や体験実験は、大変分かり易かったと大好評でした。

制作：名城大学薬学部病態解析学！
（加賀美有花、毛利彰宏、野田幸裕）
監修：名城大学薬学部 地域医療
薬局学講座
NPO J-DO（鍋島俊隆）



名古屋市立八事小学校における「くすり教室」

日時：平成26年9月17日（水）9時40分～10時55分

場所：名古屋市立八事小学校 体育館

内容

- ・「実験を始める前のお話し」：Q&A方式

くすりをどのように飲んだら良く効き、副作用を防ぐことができるか、Q&A方式で小学生が答える、児童参加型で行いました。名城大学薬学部の大学生がスライドを使ってわかりやすく説明し、多くの小学生が元気よく挙手して活発に問い掛けに答えてくれました。

- ・「体験実験」

小学生は14グループ（1グループ4～5名）に分かれ、お話の内容をより理解できるように、鍋島俊隆理事長、間宮隆吉会員、毛利彰宏会員および富山大学薬学部の宮本嘉明先生や名城大学薬学部の学生が補助しながら、体験実験を行いました。

＜実験項目＞

1. どうして「カプセル」になっているのだろう？
2. コップ1ばいの水かぬるま湯でくすりを飲むのはなぜ？
3. 水がなくても飲める錠剤があるのを知ってる？
4. 「ざやく」って何度で溶けるんだろう？
5. 胃でとけずに、腸でとけるくすりがあるのを知ってる？
6. くすりを「お茶」で飲むとどうになってしまうの？
7. 「うがいぐすり」でうがいをした後に、すっぱい食品を食べるとどうになってしまうの？

名古屋市立八事小学校における授業

「乱用薬物には絶対手を出さない！」

日時：平成26年9月17日（水）11時00分～11時30分

場所：名古屋市立八事小学校 体育館

内容

- ・「乱用薬物には絶対手を出さない！」：Q&A方式

どのような薬がドラッグとして乱用されているか、薬物乱用はどのように怖いのか、乱用されているくすりの正しい情報、薬物乱用者の実態、薬物乱用に対してみんなができることについて鍋島俊隆理事長がスライドを使ってわかりやすく説明しました。鍋島理事長の問い掛けに対して、多くの小学生が元気よく活発に答えてくれました。大変にぎやかに、お話を通して薬物乱用の恐ろしさについてしっかりと理解することが出来ました。

